

下北半島縦貫道路
概略計画PIプロジェクトの概要
【第2次PI】

平成27年3月

青森県 県土整備部 道路課

1 ① 下北半島縦貫道路の概要

下北半島縦貫道路は、むつ市と東北縦貫自動車道八戸線を連絡する延長約68kmの地域高規格道路であり、「地域間の交流促進」「産業・観光分野発展の支援」「救急医療ネットワークの向上」「国家エネルギープロジェクトの支援」などの役割を担う重要な路線です。

目次

1. 下北半島縦貫道路の概要 1
2. 前回PI (H22～H23) の結果と今回PIの実施理由 2
3. 今回PIの合意目標とスケジュール 3
4. アンケート・ヒアリング 4
5. 地域懇談会 5
6. 計画ルート帯の選定手法 (方法) 6
7. 概略計画その1 (ルート帯及びインターチェンジ配置) 8
8. 概略計画その2 (道の駅「よこはま」エリアの整備方針) 10
9. 概略計画の付随事項 12



▲下北半島縦貫道路概要図

2 ② 前回PI(H22～H23)の結果と今回PIの実施理由

■ 前回PI結果

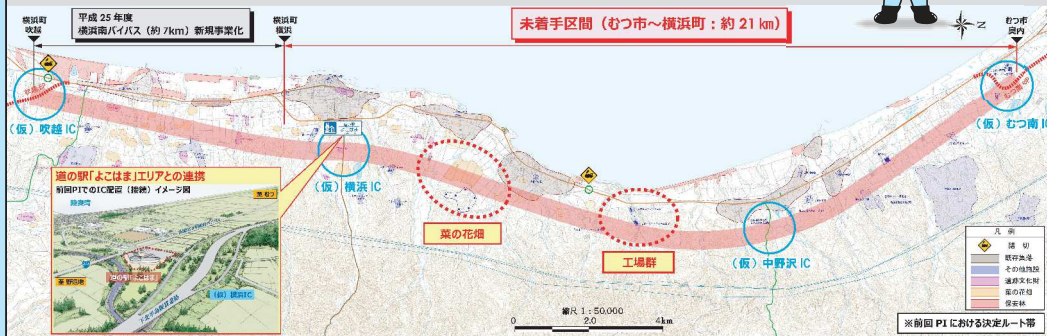
青森県では、平成22～23年度にかけて「むつ市～横浜町」の概略計画の検討を行い、『地域懇談会(全4回)』による地域との意見交換の結果、「自動車専用道路による全線バイパス」としての整備方針が決定しています。

決定背景

- 東日本大震災における津波被害等を受け、防災面の観点から代替性の確保が不可欠
- 下北半島全域をカバーする緊急輸送道路としての機能を確実に確保するため、現道とアクセス制限された自動車専用道路が必要
- 現道(国道279号)の拡幅等は沿道環境に与える影響が大きい(地域コミュニティの喪失など)

● 起終点	： むつ市奥内～上北郡横浜町吹越
● 道路種別	： 自動車専用道路
● 道路延長	： 約28km
● 車線数	： 2車線
● 設計速度	： 80km/h

前回PIで「全線バイパス案」に決まってるよ!



■ 今回PIの実施理由

未着手区間(むつ市～横浜町：約21km)が抱える検討課題

① 地域産業に配慮したルート帯の設定

未着手区間には地域産業にとって重要な「菜の花畑」や「工場群」が存在することから、それらをコントロールポイントとしたルート帯の選定が必要である。

② 道の駅「よこはま」エリアとの連携

将来にわたって活力のある地域社会を維持していくため、既存の道の駅等の地域資源を有効活用した地域振興策と道路整備とを一体的に推進することが必要である。【前回PIにおける今後の検討課題】

未着手区間を事業化させるためには・・・

上記の検討課題をふまえた『地元との基本合意に基づく概略計画の見直し』が不可欠

平成26年度、再PIを実施

3 ③ 今回PIの合意目標とスケジュール

■ 今回PIの合意目標

今回PIでは、地域懇談会(全3回)及びアンケート・ヒアリング調査等を通じて、2つの概略計画(①ルート帯・インターチェンジ配置、②道の駅「よこはま」エリアの整備方針)に係る基本合意に至ることを目的としました。⇒基本合意に基づいて「概略計画」の決定・公表(平成27年3月)

■ 今回PIの合意目標

未着手区間の概略計画に求められる機能設定・評価

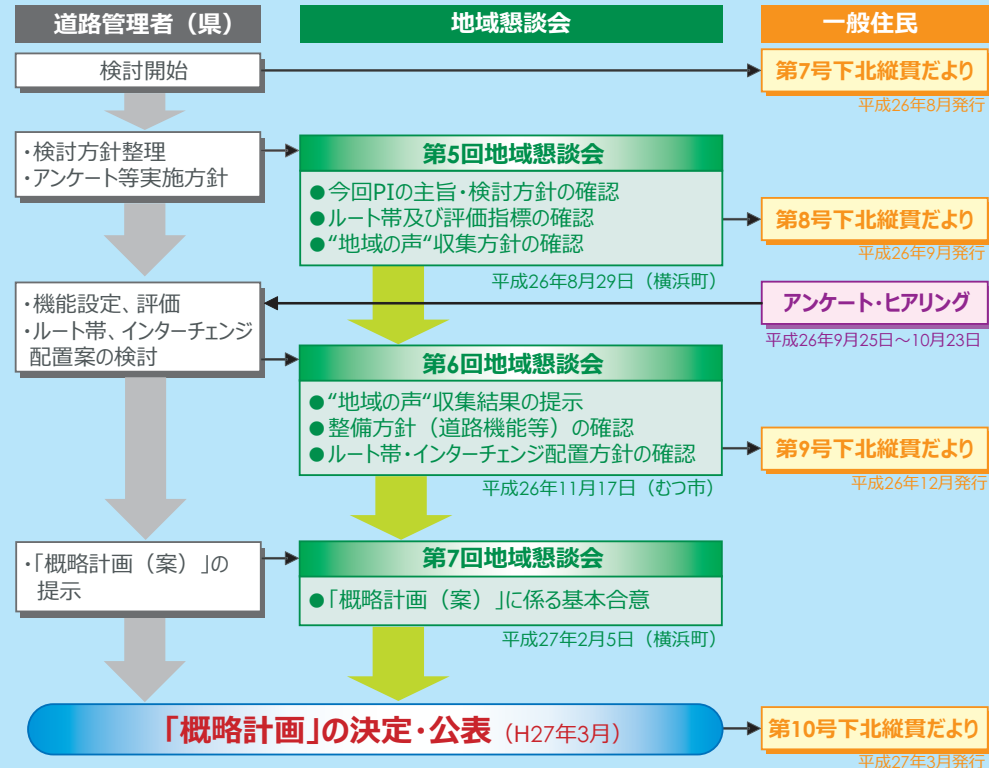
地域に求められる交通機能・防災機能等

地域の声(アンケート等)

前「概略計画」の見直しと計画帯の絞り込み

- ① ルート帯・IC配置案
- ② 道の駅「よこはま」エリアの整備方針

■ 実施スケジュール



4 アンケート・ヒアリング

■ アンケートの結果

下北半島縦貫道路の未着手区間（むつ市～横浜町：約21km）について、整備の方向性を検討する上での基礎資料とするため、地域住民及び道路利用者の皆様からご意見を伺いました。
【調査は平成26年9月25日～10月23日（約1ヶ月間）に実施】



項目	沿道住民アンケート	道路利用者アンケート
配布数	2,414部（PI区間対象）	留置及び各種団体依頼
回収数	469部	819部
	むつ市：136部（約24%） 横浜町：333部（約18%）	
回収率	469/2,414=19%	—

■ アンケート・ヒアリング調査の集計結果は、次のとおりとなりました。

【①. 下北半島縦貫道路の未着手区間整備における重要な要素】

- 最も重要なもの ⇒ **市街地への連絡** … 約半数の方が回答
- 2番目に重要なもの ⇒ **居住環境への影響** … 約3割の方が回答
- 3番目に重要なもの ⇒ **工事費の安さ** … 約2割の方が回答しているが他項目と概ね横並びの傾向

【②. 下北半島縦貫道路に必要な機能】

最も回答割合が高かった項目 ⇒ **「災害時の避難、救援復旧を円滑に行うための機能」**

※アンケート結果の詳細については青森県のホームページにて公表しています。

■ ヒアリングの結果

下北半島縦貫道路の未着手区間（むつ市～横浜町：約21km）について、整備の方向性を検討する上での基礎資料とするため、道路利用や地域の生活、経済活動に関わりの深い「企業や団体」の皆様からご意見を伺いました。【調査は平成26年10月～11月に実施】

分野	訪問先	災害時の実体験 (H24.2月豪雪時等)	全線開通に 期待すること	概略ルート帯に 関する意見	下北半島縦貫道路に 必要な機能
教育	横浜中学校	・スクールバスが立往生し、 帰宅困難な生徒が約10数名 にのぼった	・災害時における 代替道路 としての役割 ・災害時における 生徒の安全 を考慮し、早期整備を望む	・ 生徒の安全面に配慮したルート （自専道）であれば問題はない	・災害時に対応できる 防災施設
産業	日本ビュアード(株)	・ 職員の約半数が帰宅困難 な状況となった	・災害時における 代替道路 としての役割 ・ 災害時(避難や救援等)に対応 した道路の早期整備を望む	・ 海側、山側のどちらのルートでもよい （工場運営には大きな問題は無い）	—
観光	むつ市観光協会	・観光客に対して正確な 情報提供 ができなかった ・主要な道路は 2本あるべき(代替機能を持つべき) だと実感した	・ 観光産業の発展 （シーズンを通して観光客が安全に通行できる事等）	・山側ルートの風景では、観光客が飽きるため、陸奥湾が眺望できる 海側ルートが良い ・ 現道からのアクセス利便性を重視したルートが良い	・冬期間における 吹雪対策
	横浜町観光協会	・ドライブインで 立往生した車は約40台以上 にのぼった	・ 地元の産業や観光等の発展	・ 冬期の気象条件に対応したルート ・ 道の駅よこはま周辺にICは必要 ・ 町の観光資源である菜の花畑を避け山側ルートが良い	・ 避難所、待避所、休憩施設 や旧道に繋がる 避難道路
交通	道の駅よこはま	・道の駅に 乗り捨て車両 が多く発生した	・ 観光物産(産地地消)の発展 ・道の駅及び地域の活性化 ・早期整備を望む	・ 海岸線の車窓景観に優れる海側ルートが良い	・災害時に 情報収集できる防災施設
	下北交通(株)	・バス車内に、 約60名の乗客が閉じ込められた	・ 時間短縮が可能となり、観光ルートの選択肢(乗訪先)が増えること ・早期整備を望む	・ 災害時を考えると地域住民の協力が得られやすい居住区域に近いルートが安心ではないか	・ 観光バスが停車できる休憩施設
防災	海上自衛隊大湊地方隊	・道路の寸断により 物資等の輸送に遅れ が生じた	・ 迅速な物資輸送 ができること ・ 災害時に支援体制の確保 ができること	—	・ 物資等が保管できる集積場 ・ 耐震性や連絡手段の確保
	むつ消防署	・ 緊急車両が立往生し、救助に遅れ が生じた	・ 支援物資の搬送や救助活動が迅速 に行えること	・ 災害発生時を想定すると現道とのアクセス利便性が重要	・災害時の 避難所、活動拠点 一般道路に繋がる 連絡道路 ・ トクターへの避難路 ができる施設
	横浜消防署	・ 緊急車両が立往生し、救助に遅れ が生じた ・ 民家をトイレや避難所 として利用	・ 災害時に迂回路 として利用できること ・ 救急搬送の時間短縮及び迅速性	・ 災害発生時を想定すると現道とのアクセス利便性が重要	・ 緊急発動時にICから乗り入れしやすい海側ルートが良い ・ 防災拠点にレポート

5 地域懇談会

■ 委員からの主な意見及び対応方針

第5回地域懇談会 平成26年8月29日（金）【横浜町ふれあいセンター】

議題	主な意見	対応方針等
「下北半島縦貫道路の必要性」について	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の避難路確保として早期整備が必要 ・冬期でも安全に走行できる道路が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 前PI結果でもある「自動車専用道路・全線バイパス案」を基本方針とする ■ 冬期の安全性確保に対する基本的な考え方を整理し、次回懇談会にて提示する
「概略計画ルート帯」について	<ul style="list-style-type: none"> ・観光資源（菜の花畑）や耕作地を避けるルートとすべき ・早期完成のため用地取得に時間がからない計画とすべき ・冬期の安全性については評価に配慮してほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ■ アンケート・ヒアリング結果も踏まえ、ルート帯の評価指標に反映する
「道の駅よこはまの防災施設集積エリア構想」について	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な計画を示してほしい ・（仮）横浜ICの接続により既存の道の駅の駐車場の混雑や交通渋滞が発生するのではないか 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 次回懇談会で概略計画（案）を提示 ■ 概略計画（案）における交通処理検討結果を次回懇談会にて提示
アンケート・ヒアリングの実施計画について	（調査実施計画等について特に意見なし）	<ul style="list-style-type: none"> ■ 9月下旬～10月下旬でアンケート・ヒアリングを実施する

第6回地域懇談会 平成26年11月17日（月）【むつ市役所】

議題	主な意見	対応方針等
アンケート・ヒアリング結果について	<ul style="list-style-type: none"> ・（アンケート回答数をみて）地域住民がもっと関心を持つべき 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 統計上必要な回答数が得られたため、結果をルート帯計画の評価に反映
「概略計画ルート帯（事務局案）」について	<ul style="list-style-type: none"> ・可能であれば（仮）横浜ICは県道陸奥横浜停車場線に接続してほしい ・道の駅「よこはま」の防災拠点化には資機材の充実もあわせて検討する必要がある ・早期に整備できることを重点に考えて選定すべき ・山側ルートは荒天時等の走行において優位ではないか（トンネルがあるため） ・海側ルートでは生活環境への影響が懸念されるのではないか 	<ul style="list-style-type: none"> ※事務局案に対する概ねの理解が得られた ■ 概略計画ルート帯の評価は、アンケート・ヒアリング結果等に基づく「総合評価」により判断する

第7回地域懇談会 平成27年2月5日（木）【横浜町ふれあいセンター】

議題	主な意見	対応方針等
概略計画案について	<ul style="list-style-type: none"> ・一日も早く下北半島縦貫道路を完成させて欲しい ・道路構造については十分議論され地域の声を反映して頂いたので、今後は如何に早く整備するか議論が必要 ・今後は、下北の観光や産業を含めた地域活性化、及び交流人口の増加を図る事が重要 ・未着手区間である21km区間を全て一度に整備する事は困難であるため、できることから着実に整備して欲しい ・地域としても協力していきたいので、本格的な調査・設計段階に入る前に地元での土地利用状況等に詳しい地域の代表者に相談して欲しい 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 今回PIで概略計画案について基本合意を得ることができた ■ 今後は、関係省庁との事前協議及び要望活動を実施し、未着手区間（約21km）の早期事業化を目指す

■ 第5回地域懇談会



■ 第6回地域懇談会



■ 第7回地域懇談会



▲ 地域懇談会の様子

6 ⑥ 計画ルート帯の選定手法（方法）

■ 価値分析による総合評価

- 対象区間を「4つのエリア」に分け、地域の観光資源や産業施設等をコントロールポイントとしてルート帯を抽出しました。
- 計画ルート帯の比較検討では、アンケート結果に基づいた価値分析を行い、総合評価により推奨ルート選定しました。

アンケート結果

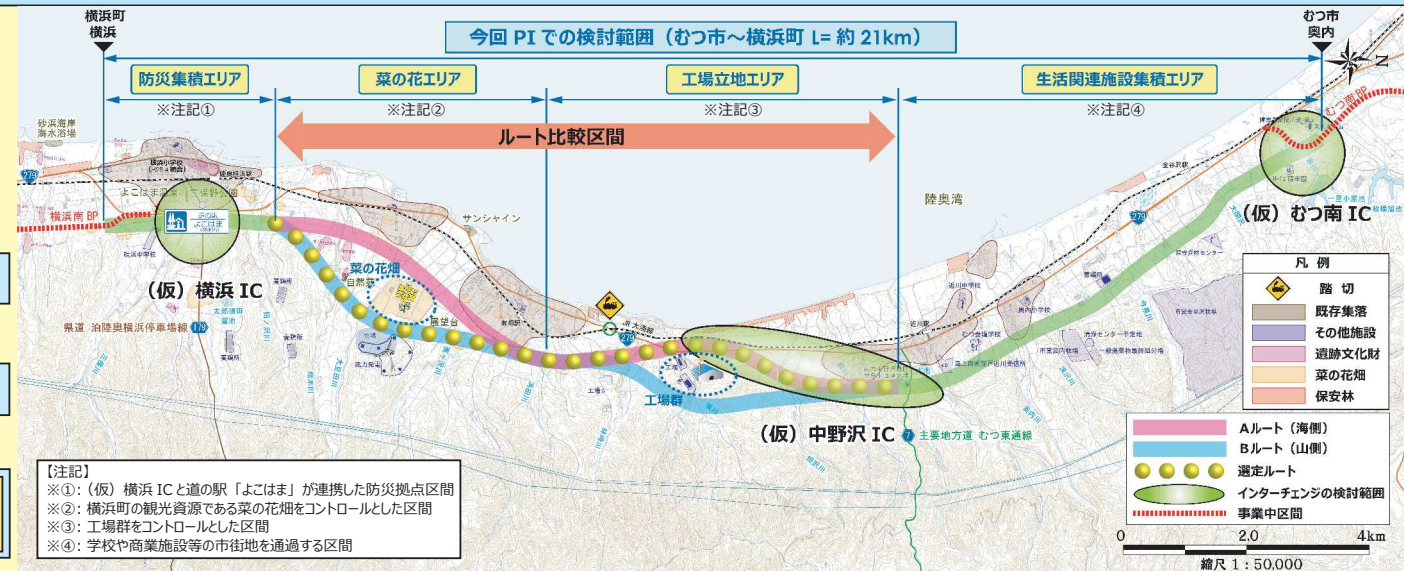


手順① 地域住民が重要と考える項目を価値分析し、配点ウエイトに換算

手順② 評価指標に基づいて比較ルート帯を総合的に点数評価

選定ルート

菜の花エリア：Bルート「山側ルート」
工場立地エリア：Aルート「海側ルート」



アンケート結果

手順①：価値分析～配点ウエイト

手順②：比較案の総合評価

この調査の目的

アンケート結果

項目	むつ	横浜	合計
市街地への連絡が良い	46%	50%	49%
居住環境への影響が少ない	20%	22%	22%
耕作地への影響が少ない	7%	9%	8%
工事の費用が安い	13%	4%	7%
自然環境への影響が少ない	5%	4%	4%
工事の期間が短い	5%	2%	3%
その他	1%	2%	2%
特に関心はない	0%	0%	0%
無回答	2%	7%	6%

アンケート票（表）

選択項目	最も重要な項目			2番目に重要な項目			3番目に重要な項目			評価値	配点
	むつ	横浜	合計	むつ	横浜	合計	むつ	横浜	合計		
市街地への連絡が良い	46%	50%	49%	18%	10%	12%	11%	11%	11%	182	4.3
居住環境への影響が少ない	20%	22%	22%	34%	30%	31%	16%	12%	13%	140	3.5
耕作地への影響が少ない	7%	9%	8%	13%	18%	17%	13%	12%	12%	70	2.3
工事の費用が安い	13%	4%	7%	14%	8%	10%	20%	19%	19%	60	2.1
自然環境への影響が少ない	5%	4%	4%	10%	12%	12%	18%	15%	16%	52	1.9
工事の期間が短い	5%	2%	3%	9%	10%	10%	13%	11%	11%	39	1.7
その他	1%	2%	2%	0%	1%	1%	1%	2%	1%	9	1.1
特に関心はない	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	1%	0%	-	-
無回答	2%	7%	6%	3%	3%	8	9			-	-

■ 点数設定内容

- 評価値 = $\sum \left[(\text{各選択項目の比率ポイント}) \times \text{重み点} \right]$
重み点：「最も重要な項目=3」、「2番目=2」、「3番目=1」
- 配点ウエイト = $1 + \left[\frac{\text{選択項目の評価値}}{\text{評価値の合計}} \right] \times 10$

評価項目（指標）	評価のウエイト	菜の花エリア		工場立地エリア	
		Aルート	Bルート	Aルート	Bルート
① 交通	①時間短縮	○ 8.6	○ 8.6	○ 8.6	○ 8.6
	②スムーズな走行	○ 2.0	○ 2.0	○ 2.0	○ 2.0
	③集落や市街地からのアクセス性	○ 2.0	△ 1.0	○ 2.0	○ 2.0
② 環境	①景観への影響	-	-	○ 8.6	△ 4.3
	②生態系や動植物への影響	△ 1.9	○ 3.8	-	-
	③生活環境への影響	○ 3.8	○ 3.8	○ 3.8	△ 1.9
③ 土地利用 市街地整備	①住宅地等への影響	○ 3.8	○ 3.8	○ 3.8	○ 3.8
	②農業用地への影響	△ 3.5	○ 7.0	△ 3.5	○ 7.0
	③遺跡・文化財への影響	○ 4.6	△ 2.3	○ 4.6	○ 4.6
	④地域交流への効果	△ 1.9	○ 3.8	○ 3.8	○ 3.8
④ 防災	①地震・津波への対応	-	-	○ 8.6	△ 4.3
	②風水害等への対応	○ 8.6	○ 8.6	○ 8.6	○ 8.6
⑤ 事業性	①経済性	○ 8.6	○ 8.6	○ 8.6	○ 8.6
	②工事の期間	○ 4.2	○ 4.2	○ 4.2	△ 2.1
	③施工時の影響	○ 3.4	○ 3.4	○ 3.4	△ 1.7
	④用地取得に関するリスク	○ 7.0	○ 7.0	△ 3.5	△ 3.5
総合評価（評価値合計）		69.1	78.3	82.8	77.2

点数（評価値） = {○：2点、△：1点} × 評価のウエイト

7 概略計画その1 (ルート帯及びインターチェンジ配置)

■ 概略計画のポイント (要点)

下北半島縦貫道路の未着手区間 (むつ市～横浜町：約21km) のルート帯及びインターチェンジ配置について、アンケート調査等に基づく総合評価の結果、概略計画は以下のとおりとなりました。

■ 概略計画 (ルート帯及びインターチェンジ配置) のポイント (要点)

- ルート帯 ➡ 『菜の花エリアは山側へ回避』、『工場立地エリアは海側へ回避』とする
- インターチェンジ箇所 (配置) ➡ 『3箇所』とする
- (仮) 横浜IC ➡ 『道の駅「よこはま」防災施設集積エリア計画 (地方創生拠点計画) との接続・連携』を図る

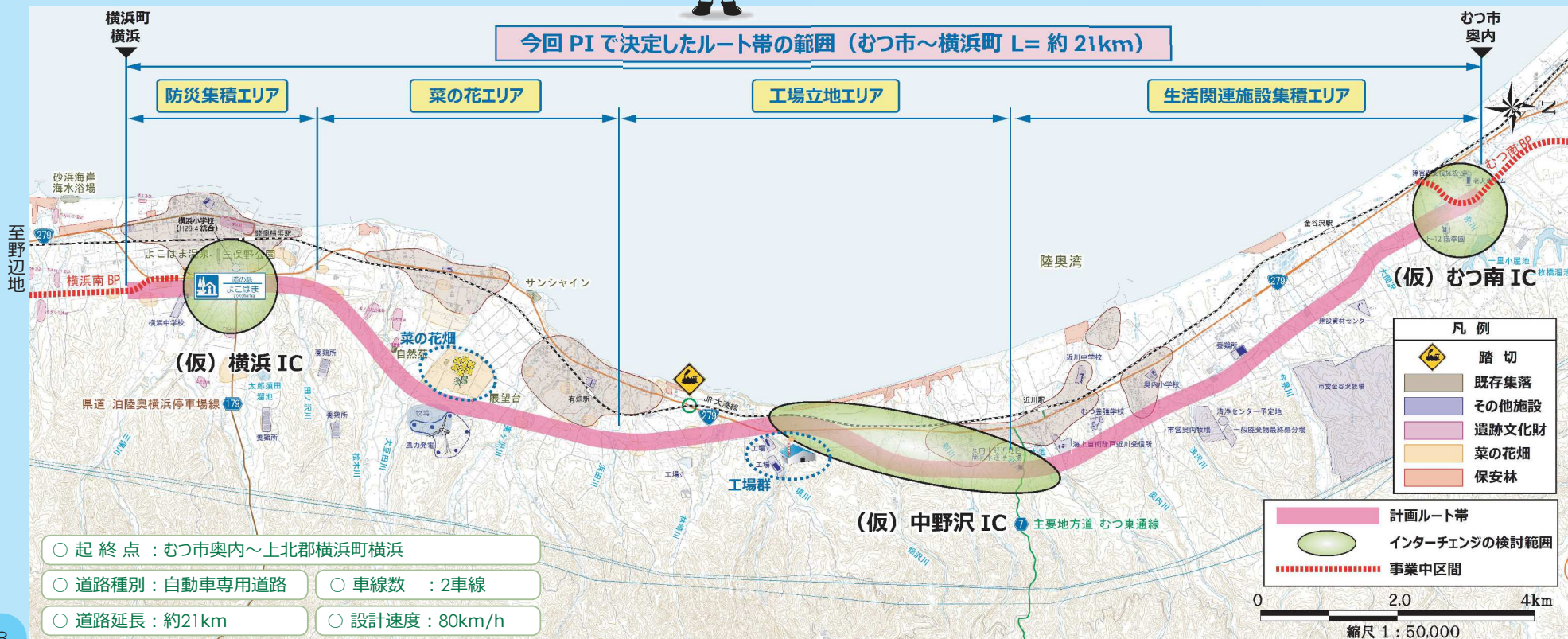
PIによって概略計画が決まったよ!



■ 今後の予定



■ ルート帯及びインターチェンジ配置

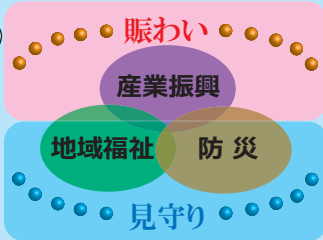


8 概略計画その2 (道の駅「よこはま」エリアの整備方針)

道の駅「よこはま」エリアの整備方針について ~「道の駅よこはま地方創生拠点概略計画」~

- 道の駅「よこはま」を含む周辺エリアを地域資源として捉え、「賑わい」と「見守り」を基本コンセプトとする「産業振興」+「地域福祉」+「防災」の3機能を有する『地方創生拠点』の形成を目指します。
- (仮) 横浜ICと道の駅「よこはま」エリアとの連携により、下北半島縦貫道路の休憩施設・情報施設としての活用を図ります。

街づくりと一体となった道路整備を目指していきます



1. 交流人口の拡大・地域経済の活性化

産業振興「道の駅」
~地域住民の活力を生む“賑わい”ステーション~

特産品のブランド化/生産・流通拡大
/雇用の拡大・創出

2. 安全・安心な住民サービスの提供

地域福祉「道の駅」
~高齢者が安心して暮らせる“見守り”ステーション~

救急搬送拠点 (地域医療の充実化)
/高齢者の暮らし支援 (宅配サービス等)

3. 地域防災力の強化 (広域防災の後方支援)

防 災「道の駅」
~国土の安全・安心の“見守り”ステーション~

広域支援部隊参集の後方支援拠点
/燃料・食糧・電源等の備蓄

具体的な整備内容 (想定案)

- 既存ストックの有効活用 (各管理者間の横断的連携) により事業効果の早期発現を目指します。

整備手法	施設名	活用内容・整備内容 (想定案)
既存施設の活用	道の駅「よこはま」	休憩施設・情報発信・物販等 (災害時炊き出し)
	横浜中学校	避難所・救急搬送拠点 (ドクターヘリ: 運用中)
	三保野公園	避難所 (災害時炊き出し)
	横浜町配水場	非常用電源を備えた給水 (停電下3日間供給可能)
	民間施設 (コンビニ、給油所)	災害時支援包括連携協定、高速バスとの連携
新設・拡張整備	① 横浜小学校 (H28統合校舎)	避難所・救援活動拠点 (ヘリポート) 【横浜町整備】
	② 給食センター跡地整備	備蓄倉庫等【横浜町整備】
	③ 駐車スペース拡張等	駐車場/防災トイレ/休憩・情報発信スペース (防災パネル、wi-fi施設等) 【青森県整備】
	④ 雪氷施設等	除雪ステーション/非常用電源設備/貯水槽等【青森県整備】

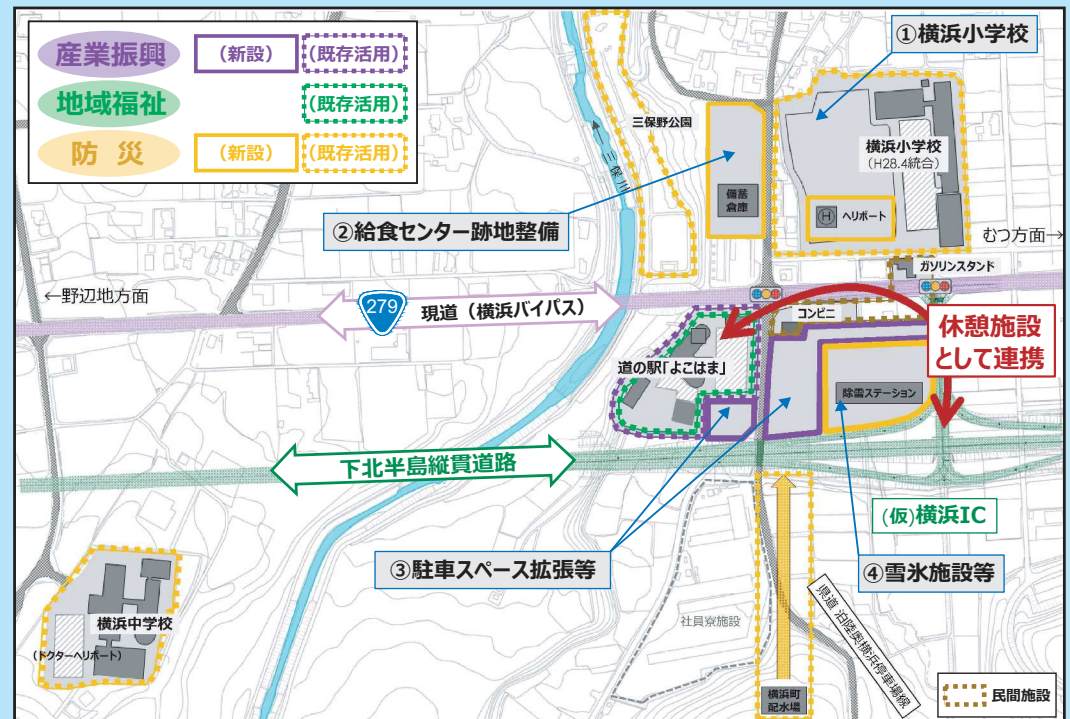
今後の予定 (道の駅「よこはま」エリア)

項目	内容
「道の駅よこはま地方創生拠点基本計画」の作成・公表	> 具体的な整備内容等を盛り込んだ「道の駅よこはま地方創生拠点基本計画」の作成・公表 (委員会設置)



- ・ (ソフト事業、既存ストック活用エリア) 随時運用開始を目指す
- ・ (新設・拡張エリア) 新規事業化を目指す

「道の駅よこはま地方創生拠点概略計画」イメージ図



9 概略計画の付随事項

■ 今後の課題と対応方針

委員から頂いた以下の意見については、継続した調査・検討を進めていきます。

分類	今後の課題	対応方針
整備方針	①まちづくり（地域活性化）に寄与する道路整備	<ul style="list-style-type: none"> 道の駅「よこはま」エリアにおいて地方創生拠点（産業振興、地域福祉、防災）の形成を目指すとともに、下北半島縦貫道路とのアクセス利便性の確保に配慮します。 横浜町の将来ビジョン（総合振興計画や地方創生総合戦略）との連携・調整を図ります。
設計・施工	②周辺環境に配慮した道路整備	<ul style="list-style-type: none"> 事業化後の詳細設計段階において、専門家の指導に基づく環境調査を実施することにより、動植物等を含めた周辺環境との調和、共存に努めます。
	③冬期の安全性確保（風雪等）	<ul style="list-style-type: none"> ハード対策（防雪・防風壁、視線誘導標の設置等）とソフト対策（監視・規制システム等）との調和による冬期の安全性確保に努めます。
運用・管理	④災害時に現道（国道279号）か下北半島縦貫道路のどちらかが通行できるようにする	<ul style="list-style-type: none"> ハード対策（道路構造による安全対策等）とソフト対策（道路・情報提供や管理体制等）との両面により、「人命の保護」を最優先とした総合的な運用・管理体制の構築を目指していきます。



●お問い合わせ●（事務局）

青森県 県土整備部 道路課 整備推進グループ

電話：017-734-9651 FAX：017-734-8189

メールアドレス：doro@pref.aomori.lg.jp

むつ市 総務政策部 企画調整課

電話：0175-22-1111 FAX：0175-23-4108

横浜町役場 建設水道課

電話：0175-78-2111 FAX：0175-78-2118